

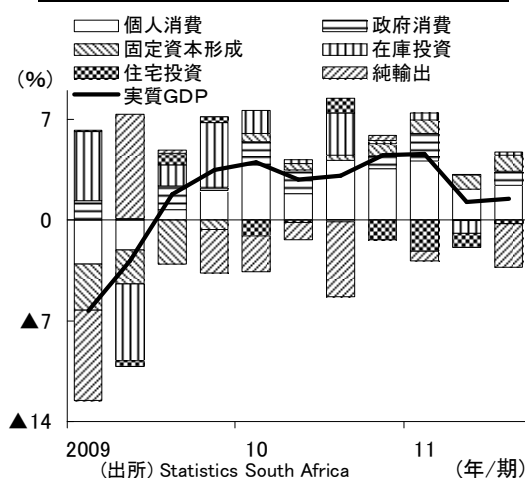


低成長続く南アフリカ経済

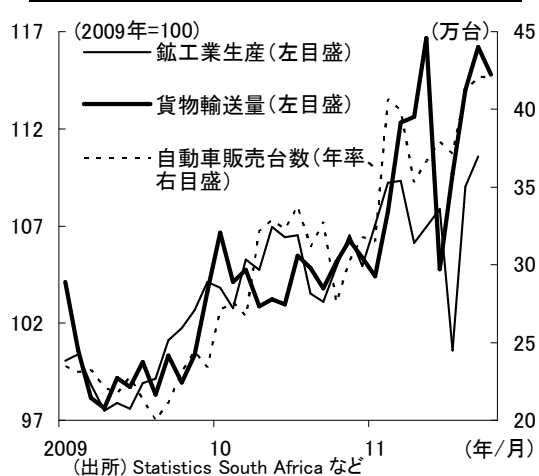
～ 年末以降、成長再加速へ ～

- (1) 南アフリカ経済が停滞。実質経済成長率は前期比年率ベースで昨年初来の4%前後から、本年4～6月期1.3%、7～9月期1.4%と2期連続1%強の低成長（図表1）。主因は個人消費の減速。加えて先行き不透明感の増大を映じた在庫圧縮や住宅投資の手控え。さらに昨年中央進行したランド高によって輸出が伸び悩む一方、製品を中心に輸入が増加した結果、外需がマイナス寄与。新年も低成長持続の見方が拡がり。
- (2) しかし同国内の経済活動に即してみると、このところ加速の兆し（図表2）。まず鉱工業生産は7月、大幅に落ち込んだものの、8月以降急回復。生産動向と相関性が高い物流動向をみると、貨物輸送量は6月、大幅に落ち込んだ後、7月以降、大幅増。自動車販売動向では、リーマン・ショック後、国内需要の低迷を受けて強まった輸出指向から再び内需指向へ回帰する動き。季調済年率ベースでみると9月以降42万台前後と既往最高水準で推移。
- (3) 内需の回復、とりわけ個人消費の盛り上がりは、所得雇用環境の改善が起点（図表3）。リーマン・ショック直後、所得雇用調整が進行。次いで2009年末以降、雇用調整が引き続き進行するなか、所定外賃金が増加。企業セクターは需要増に所定外労働時間の増加で対応。さらに本年入り後、雇用者数が増加に転換。所得雇用環境の改善傾向が本格化へ。
- (4) 設備投資の導火線を担う直接投資動向をみると、外資の流入に加え、本年7～9月期には、同国市場の成長期待から国内資本回帰の動きが拡大（図表4）。本年中央、物価騰勢に沈静化の兆しが拡がる一方、秋以降、為替相場がドル高に転換し輸出品の価格競争力が回復へ。以上を総じてみれば、本年末以降、同国経済は再び4%前後の成長軌道へ復帰する公算大。

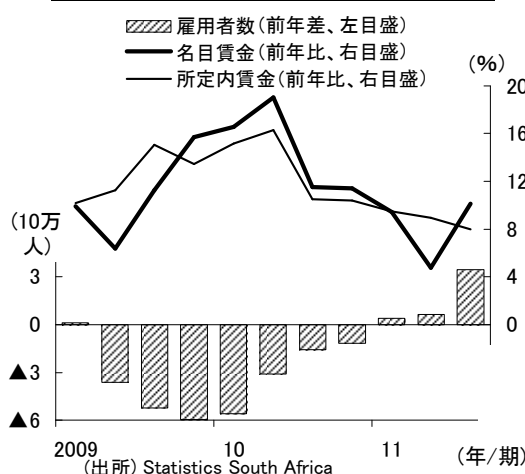
（図表1）南アフリカの実質GDP（季調済年率）



（図表2）生産と貨物輸送、自動車販売（季調済）



（図表3）雇用者数と名目賃金、所定内賃金



（図表4）対内・対外直接投資

